

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201544		
法人名	社会福祉法人 一葉会		
事業所名	グループホーム はるなの里		
所在地	青森県弘前市自由ヶ丘三丁目15番地9		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①外食や買い物等のドライブを行い、馴染みのある地域の雰囲気を感じ、その地域の一員として生活できるように働きかけている。
 ②職員間の関係が良好で、20代3名、30代3名、40代2名、60代1名の様々な年齢層の職員が年齢に見合った役割を果たし、フレッシュで活気のある空間を作り、張りのある日常生活を送ることができるように心がけている。
 ③併設している知的障がい者グループホームと交流することができる。親子での入居も可能であり、その人らしい生活を継続できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みんな家族、地域とのふれあい、楽しい暮らし」という理念を掲げ、併設している障害者施設とともに特性を生かして、地域との繋がりを大切にされた協力体制となっている。毎月避難訓練を実施しており、防災への意識が高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える場所に掲示している。職員会議等で振り返り、理念を共有して実践につなげている。	理念を玄関やホールに提示しており、職員会議等で振り返りの機会を設けている。理念を反映した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年夏祭りを行い、地域住民を交えてパーベキューを行ったり、地域の敬老会に参加する等して交流を図っている。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で行っていないが、落ち着き次第再開する予定である。	法人や事業所の行事、避難訓練に協力していただき、地域の一員として日常的に交流を図っている。今年度はコロナ禍のため交流を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で活動の記録や行事の様子をビデオで流し、説明を行うことで認知症の理解を図っている。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で行っていないが、落ち着き次第再開する予定である。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和元年度は毎回活動記録を報告し、話し合いを行うことでアイデアや情報を引き出し、サービス向上を図っている。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず、毎回中止の旨の書類をメンバーにお渡ししている。	コロナ禍のため今年度は運営推進会議が開催できていない。開催時期に中止の案内をメンバーに出している。地域包括支援センターや市役所の助言を受けて、開催に向けて話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点等は積極的に連絡しており、意見をいただく等の協力関係を築いている。令和元年度は、運営推進会議の内容の報告を行っている。令和2年度は、運営推進会議の実施について等の連絡をして協力関係を築いている。	自己評価と外部評価の結果報告を行い、ホームの状況を理解していただいている。必要時は、適宜相談して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方針であり、3ヶ月に1回職員会議で話し合い、理解を深めている。夜間は防犯のため施錠を行っている。	マニュアル等を整備している。3ヶ月に1回「身体拘束廃止委員会」の会議を開催している。職員は勉強会に参加し、身体拘束を行わない姿勢で日々のケアに取り組んでいる。今まで一度も身体拘束を行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の場で、身体拘束に併せて虐待についての内容にも触れ、学ぶ機会を作っている。また、職員同士が意識を高く持ち、協力し合うことで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の場で、日常生活自立支援事業や成年後見制度をテーマに内部研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、地区民生委員と情報交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は、利用者と家族との最初の共同作業であると考えている。不安や疑問等を伺い、十分に説明を行い、信頼関係を構築している。また、改定があった際も十分に説明を行い、理解や同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、利用者が意見等を言える関係を築くようにしている。ご家族が来所された際には、状態の報告や要望、意見を表せる場を設けている。意見等があった際には、運営に反映できるように努めている。	利用者に日々寄り添い、些細なことでも話せる関係を築いている。相談苦情窓口をホーム内に掲示したり、重要事項説明書に明記して説明をしている。出された意見や要望は速やかに話し合いを行い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員が意見や提案を出しやすい環境を作っている。必要に応じて個別面談の機会を作っている。	管理者と職員は気軽に何でも話せる関係ができており、運営や業務改善に向けて検討等を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に現場に来て、現場の状況や職員の勤務状況を把握している。保有資格を活かした人員配置を行い、意欲的に働くことができるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っているが、職員が自らテーマを策定し、自己研鑽を図る取り組みを行っている。職員の能力に応じた外部研修の情報提供を行い、スキルアップができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和元年度は、グループホーム連絡会や各種講習会へ積極的に参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。令和2年度は参加できていないが、地域包括支援センターを通して、書面や電話で連絡を取り合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴や現在の不安や要望を聞くために事前に直接面談を行っている。入居後も安心して過ごすことができるように意識して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始に伴い、ご家族に見学に来ていただき、面談を通してご家族の思いを受け入れ、信頼関係を築くことができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族のニーズに対して、その時点で最も優先することを見極めている。必要に応じて他の相談機関を紹介したり、直接連絡する等、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内外問わず、様々な活動と一緒にいることでお互いに協力し合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時や電話連絡の際に、ホームでの生活状況や課題等を報告している。相談することで共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月生活状況がわかるように写真付きの手紙を送っている。令和元年度は、買い物や個別に馴染みの場所に外出して関係が途切れないように支援した。令和2年度は、新型コロナウイルスが落ち着き次第再開する予定である。	入所時のアセスメントや日常のかかわりの中で馴染みの関係を把握しており、美容院や床屋、買い物等、好きな場所に出かけられるように支援している。現在はコロナ禍のため自粛している。電話や手紙による連絡等は、交流が途切れないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、必要時にさりげなく職員が声掛けや橋渡し役を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や支援に応じる姿勢を示している。事前に転居先の関係者に情報を伝え、利用者が安心して過ごすことができるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の思いや意向を確認し、職員間で話し合っている。自己表現が困難な利用者には、心情の把握に努めるほか、ご家族に聞き取りを行い、希望や意向に沿えるように心がけている。	日常生活の関わりの中で利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握するように努めている。また、家族や関係者からも情報収集を行っている。意思疎通困難な利用者には、表情や行動を観察して全職員で話し合って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に利用者やご家族から生活歴を確認している。また、回想法を用いたり、日常会話の中からも新たな情報を引き出し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やモニタリングだけでなく、日々の会話や行動を観察することで、利用者の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で計画書について意見を出し合い、モニタリングを通して計画書を作成している。	アセスメントや会話の中から利用者と家族の意向を把握し、会議で話し合って職員間の理解を図りながら、利用者本位の個別具体的な介護計画を作成している。目標期間を設定してモニタリングを行い、定期的に計画を更新しているほか、意向や身体状況の変化が見られた場合は、随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や気づき等は、ケース記録や毎月の会議にて共有し、ケアの統一を図ると共に介護計画へも反映させている。早急に対応が必要な場合は、連絡ノートを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	令和元年度は、個別の外出やドライブ、同法人の障がい者施設や保育園を往来して交流を行う等の支援を行った。令和2年度はコロナ禍のため、外部との接触のないようにドライブのみ行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和元年度は、地区の敬老会や町内の納涼祭に参加する等、楽しい暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及びご家族が希望する医療機関を受診できるように配慮している。また、協力医院への受診支援を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時に利用者及び家族から聞き取りを行い、これまでの受療状況と意思確認を行い、希望する医療機関を受診できるように支援している。受診結果の伝達方法や受診方法は、利用者と家族が納得できるようになっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に変化があったときは、併設の障がい者施設の看護師に連絡を取り、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、情報提供を行い、安心して治療できるように努めている。入院中もご家族や医療機関と連絡を取り、適切な処遇について話し合う機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、ホームでできること、できないことを入居前に説明を行っている。その範囲の中で協力医院や各利用者の主治医と連携しながら支援をしている。	終末期の対応はしていないことを入所時説明している。重度化や急変時の対応については、家族や医療機関と意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、掲示している。また、法人内で救急の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	令和元年度は、夜間想定避難訓練を毎月行っている。納涼祭時は地域の方や消防団を交えた訓練を行い、協力体制を築いている。令和2年度は、同法人障がい者との接触を避けるため、実施していない。	毎月避難訓練を実施している。地域住民や法人の障害者施設と合同で訓練実施していたが、今年度はコロナ禍のため合同での訓練は実施していない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人ひとりを尊重した言葉かけや接し方を心掛けている。また、プライバシーを損ねないようにパーソナルスペースに配慮している。	利用者の対応や声掛け等で気になることは、その都度注意しあったり、確認や改善に向けた話し合いを行う等して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に応じた選択肢を与え、希望を引き出し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて、その日の気分や体調にも配慮し、無理のない支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服の選択や鏡の前で身だしなみを整えていただいたりしている。外出行事の際は、よそゆきの服を着ていただく等、おしゃれができるように支援している。四季に応じた洋服が着られるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回、嗜好調査を行っている。また、月1回クッキングを行い、利用者の能力に合わせた盛り付けや調理過程を行っていただいている。	法人で作られたものを提供しているが、週1回休みのためその日は職員が調理をしている。利用者の苦手な食材には代替食で対応する等している。食事の際は、職員が同席して食事のサポートや会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し、必要な栄養と水分を確保できるように支援している。水分摂取量の管理が必要な利用者には、細かく摂取量の確認を行っている。嚥下状態が悪い利用者には、トロミをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、自菌や義菌の洗浄を行っている。必要に応じて職員が介助を行っている。うがいが困難な利用者には、口腔用のウエットティッシュを使用して清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心がけ、トイレ誘導や介助を行い自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いている。排便困難時は、医師から指示をいただいている。1日の活動の中に適度な運動を取り入れるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日を決めているが、利用者の体調や希望によって変更する等の対応を行っている。また、清拭や足浴を行う等の柔軟な対応を行っている。	一人ひとりの好みや習慣を把握して、入浴日や時間帯、入浴方法等を利用者の意向を取り入れて支援を行っている。入浴を拒否する利用者には、誘導の仕方や声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間に合わせて臥床するよう促している。また、昼食後には休みたい利用者にはベッドに、起きていたい利用者にはホールに誘導し、自分のペースで過ごすことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れがないように職員同士で確認し合っている。薬剤情報はファイリングをして常に確認できるようにしている。薬の変更情報は共有し、薬の作用による体調の変化等がないか随時話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた軽作業を行っていただくことで意欲的に過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和元年度は一人ひとりの希望に沿った買い物や食事を計画し、外出の機会を設けていた。令和2年度はコロナ禍のため行っていないが、落ち着き次第再開する予定である。	個別でのドライブや食事会に出かける等、利用者が気分転換ができるように取り組んでいる。今年度はコロナ禍のため外出を控えており、敷地内の野外活動での活動やホーム内でのおやつ作りやイベントを増やして利用者が喜んで気分転換が図れるように支援している。ソーシャルディスタンスを保ちながら紅葉見学の外出を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況やご家族の要望に配慮しながら金銭管理を支援している。管理が困難な利用者はホームで管理を行うが、買い物等の際には利用者やご家族の理解と同意を得る働きかけを心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に連絡をしたいときは、先に職員が連絡をして対応している。利用者のご家族の希望に沿った対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな音楽を流す等して、くつろげる空間作りに努めている。随時、ホーム内の温度・湿度調整を行っている。また、掲示物は四季を感じられるように工夫している。	共用部分は落ち着いた心地よく過ごせる空間となっている。室内は明るく、日差しや照明も適切である。ホーム内の温度・湿度は、適切に保つように管理しており、季節が感じられる飾り付けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テーブル席やソファ席、少し離れた席があり、一人ひとりがそのときの気分に合わせて過ごすことができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご家族の方の写真を飾ったり、入居前から使用していた家具や身の回りのものを持って来てもらい、居心地よく過ごせるように工夫している。	馴染みの物の持ち込みがあり、それぞれの利用者にあった居室となっている。ベッド等の家具の配置は、利用者に合わせて配置しており、利用者にとって安心して過ごしやすい空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからなくなる利用者に対しては、ドアに大きく名前を表示して、すぐに気づくことができるように工夫している。廊下には手すりを設置し、安全に歩行できるように配慮している。		